

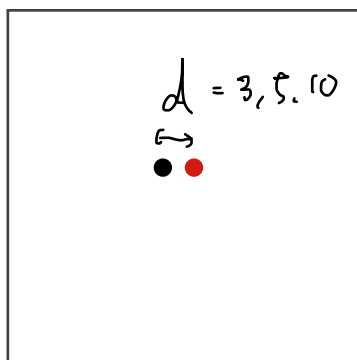
9/16

8/29 の 1-1 参照の 2つの condition

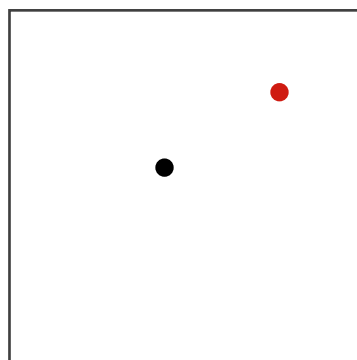
Simulation conditions

Sim1

NBC



Sim2 NBC



$d = 3 \sim L$ ($= 100, 200, 1000$)

この状況で一般的に解釈される

選択行動

Movement

+

Pause

BW

BP

LW (1.1~3)

LP (1.1~3)

なし ← 特殊

なし

CRW

↓
常に選択行動

組み合わせが多数ある

Movement を固定して、Pause を変化したものを

①

BW - BP
LP (1.1 ~ 3.0)
NP (no pause)
OP (only pause)

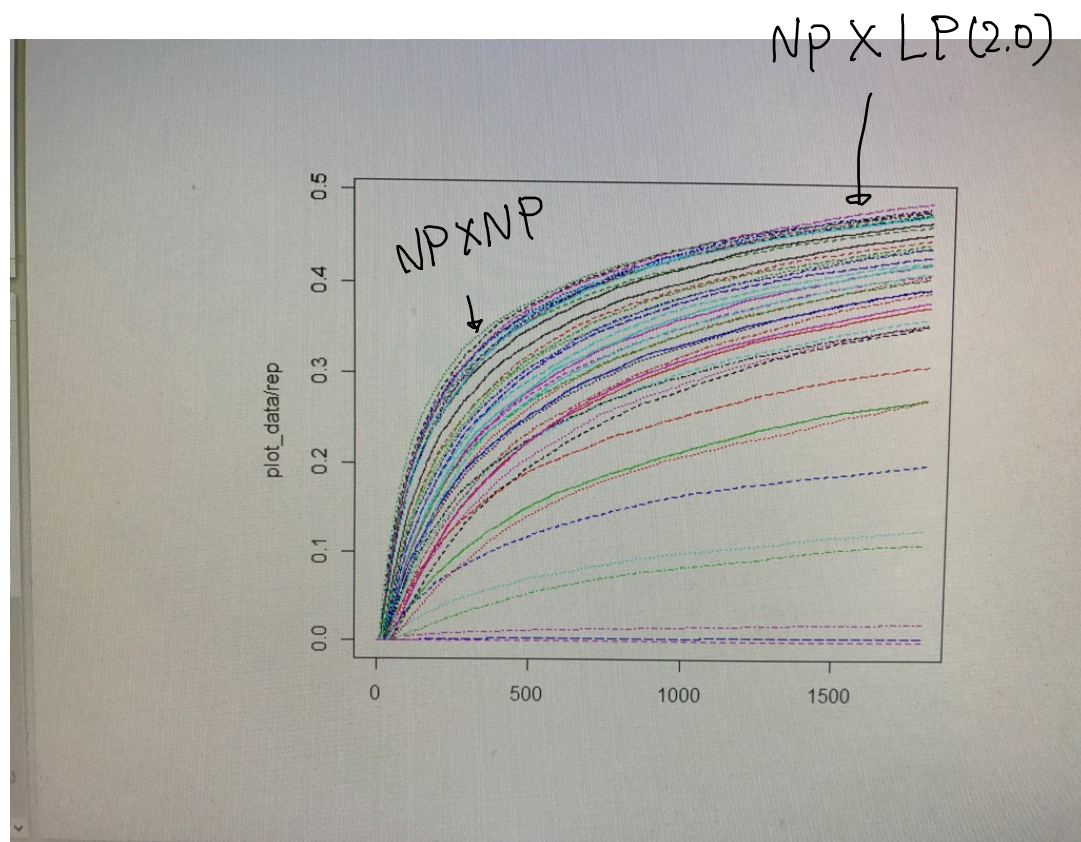
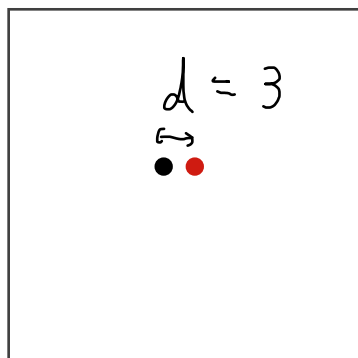
OpenCV 5.2 に
4月 7 日 迄

7x7 = 49 patterns - 6 (重複)

⇒ 結果

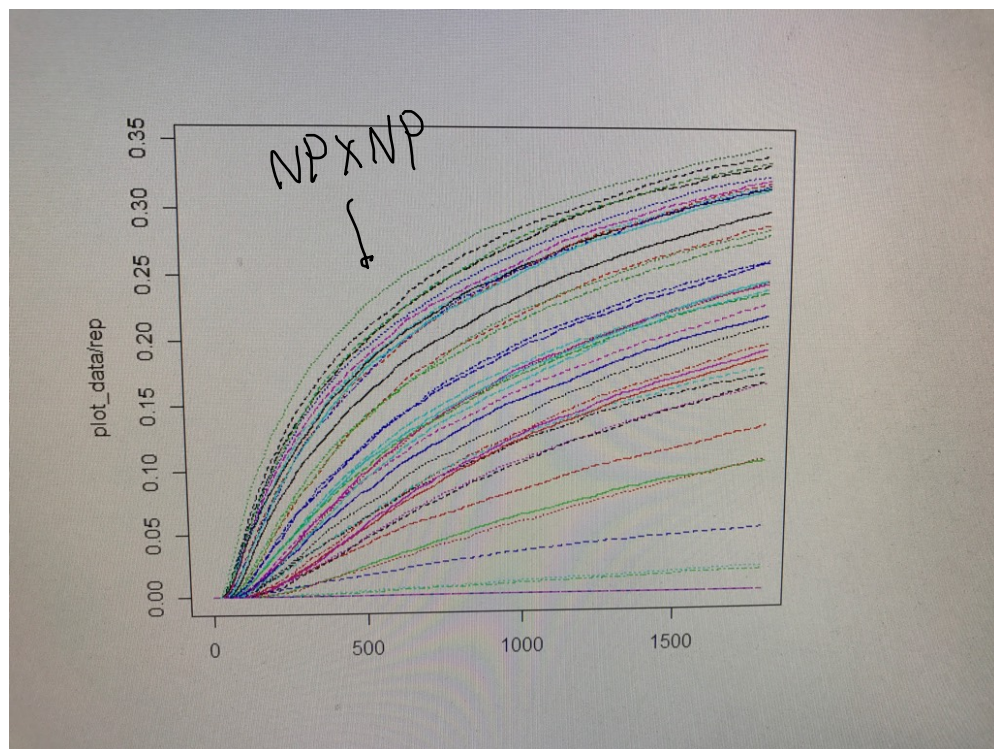
Sim 1 - 1

IBC



Sim 1-2

$d = 5$



何もなければ短い時間 24-ル だと NP x NP がよい

⇒ 後に NP x LP が こねて(???) 思われる。

この辺は 速度が心にも依存する。

⇒ シロアリに合わせ、pause 込みの

高精度 計算に 2 文良。

またこの再、surrogate data が作成
control sim を作成して、結果を比べる

⇒ データを みる、えらる。

基本的なデータを揃える (タンドム)

- ・ 個体のサイズ (φ)
 - ・ タンドムが生じるために必要な接近距離 (detection)
- まとめられる. 初期距離 d

タンドムの全般解析

9/23 再開!

+ 仮説検証にする.
→ はくみ成功率・回収

はくみることの定義 = タンドムの定義



・ 虫の直向方向に居る
・ 距離が近い

⇒ 単純に画像解析にし
てはくみられているか否かをみるのか?

し

これが簡単にできるか、山中君に聞いてみる